

フィリピンでの研修では高校を二校訪問し、現地の学生たちと交流した。

最初に訪問したセブ国立科学学校では、「より遠く飛ぶ紙飛行機を作る」というテーマのもと、いくつかのチームに分かれて現地の生徒たちと議論し、試行錯誤しながら紙飛行機を作った。しかしながら自分さらにはグループの皆がそれについての知識がほとんど無かったため、保曖昧な方針を立てるのがやっとなかった。しかしその中で私たち日本人とは決定的に異なるものを感じた。私は曖昧な方針をより明確にしようと考えていたところで、現地の生徒たちは真っ先に手を動かして始めた。

我々日本人は、物事を解決しようとする際、まず論理的に考えようとする傾向が極端にある。これが特別悪い方法だとは言えないが、実験してみることでわかることも多くある。この実験を避けてしまいがちな私たちにとって、彼らの姿勢は見習うべきものであるし、このような姿勢を持つことができれば、物事をより効率的に解決できると感じた。

その後、皆で一緒に昼食を食べたり、学校を案内してもらったりして交流を深めることができた。

次に訪問したマンドラウエ総合高校では、現地の生徒に混ざり、授業に参加した。

前日に訪問したセブ国立科学学校の生徒たちのように、失敗を恐れずに行動する（ここでは失敗を恐れずに発言する）といった姿勢はここでも見られた。また、先生の質問にも工夫がされていて、一問一答の質問はなかなかせず、どうしてこのようになるのか、といった答えが一つに定まらない発想力を問うような質問が多くされていると感じた。

その後クラス内で私たちが自己紹介をする時間が与えられた。生徒たちとコミュニケーションを取る上で、言語の壁は全くといっていいほど感じなかった。人気の日本食、日本の国技や有名なスポーツなど、様々なことを質問されたが、まるで日本語を話しているかのような感覚で会話することができた。

このフィリピン研修では、海外の生徒はどのように科学を捉えているのか、日本の生徒との違いを学ぶことができた。将来海外で教育関係の仕事につくという目標を持っている私にとって、これは必ず知っておきたい点であったため、自分の目標に向けて一歩進むことができたと言える。このような自分が大きく成長できる素晴らしい機会をいただいたことにとっても感謝している。

3日目 この日もまた、ホテルで朝食を取ったあとにバスで移動しました。この日に向かったのはマンダウエ総合高校です。ここでも生徒さんたちが温かい歓迎をしてくださり（拍手や楽器演奏など）、とても温かい気持ちになれました。ここで6人×2グループに分かれて、生徒さんたちと一緒に授業を受けました。私たちのグループは「物理」の授業でした。圧力（Pressure）と体積（Volume）、温度（Temperature）の関係についての授業で、身近なもの（気球や車のエンジンなど）を例として、なぜこのように動くのか、なぜこのような構造をしているのかなどといった問題を4～5人のグループになって答えました。先生の説明もよくわかり、ノートもしっかりとれたので、良かったと思います。（中略）その後、バスで市内を回りました。サン・ペドロ要塞の城壁や大砲、サント・ニーニョ教会の大きさや絵画の迫力に驚き、感動しました。（中略）本当によかったです。

最終日 朝早くに起きてバスに乗り空港へ。もう少しの間フィリピンにいたいな、と思いながら空港へ向かいました。そして、飛行機で約4時間かけ帰国してきました。

今回の研修で分かったことは、相手とコミュニケーションをとりたいときは、積極的な姿勢が大切だということです。今回はそれがしっかりできたと思います。また今度このような機会があれば、この経験を活かしたいと思います。本当に貴重な体験ができました。

以上で報告を終わります。